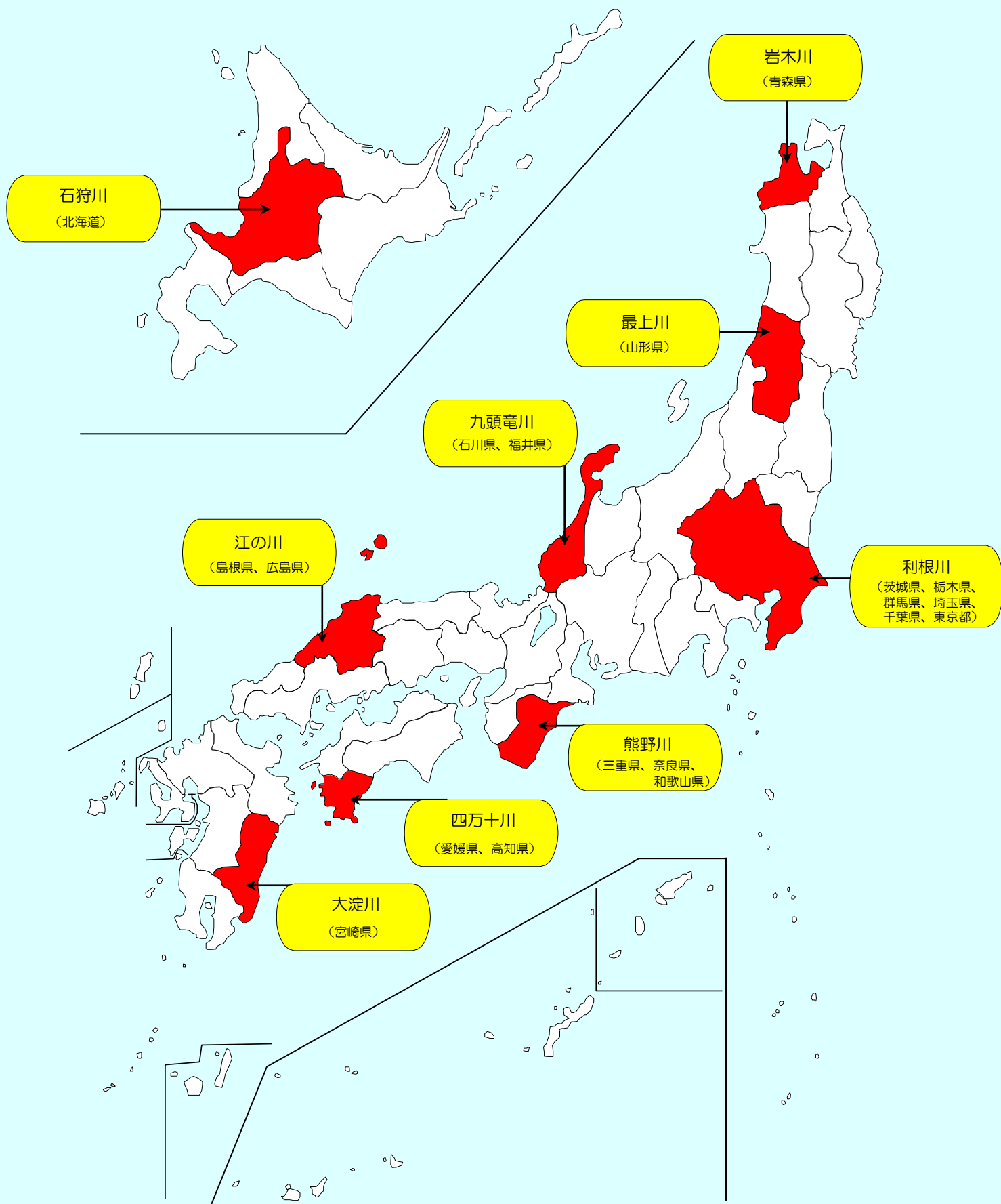


令和4年度期中の評価対象広域流域

※ () は関係都道府県



(参考1)

期中の評価における評価対象流域

No.	広域流域	R1	R2	R3	R4	R5
1	天塩川			○		
2	石狩川				○	
3	網走・湧別川					○
4	十勝・釧路川	○				
5	沙流川		○			
6	渡島・尻別川			○		
7	岩木川				○	
8	馬淵川					○
9	閉伊川	○				
10	北上川		○			
11	米代・雄物川			○		
12	最上川				○	
13	阿武隈川					○
14	阿賀野川	○				
15	信濃川		○			
16	那珂川			○		
17	利根川				○	
18	相模川					○
19	富士川	○				
20	天竜川		○			
21	神通・庄川			○		
22	九頭竜川				○	
23	木曾川					○
24	由良川	○				
25	淀川		○			
26	宮川			○		
27	熊野川				○	
28	紀ノ川					○
29	加古川	○				
30	高梁・吉井川		○			
31	円山・千代川			○		
32	江の川				○	
33	芦田・佐波川					○
34	高津川	○				
35	重信・肱川		○			
36	吉野・仁淀川			○		
37	四万十川				○	
38	遠賀・大野川					○
39	筑後川	○				
40	本明川		○			
41	菊池・球磨川			○		
42	大淀川				○	
43	川内・肝属川					○
44	沖縄	-	-	-	-	-

(参考2)

期中の評価における評価区域の単位について

- 全国森林計画で規定する全国43の広域流域（沖縄を除く）を評価区域の単位とし、5カ年毎に全ての流域で評価を実施。
- 地域の偏りがないように、評価区域が全国的に分散するよう選択。
- 全国43流域を5年で一巡することから、評価単年度の対象流域数は、8～9流域。

令和4年度評価地域数：

9流域×3区分＝27対象地

令和4年度期中の評価対象地一覧

広域流域名 (関係都道府県)	区 分	契約件数 (件)	契約面積 (ha)	事業対象 区域面積 (ha)	流域の特徴
石狩川 (北海道)		74	8,296	7,388	札幌市をはじめ都市化の進展が著しい道央地域を包括しているほか、広大な田園地帯が広がっており、水道用水や農業用水として良質な水の確保や安定供給が求められている。
	50年以上経過分	41	4,343	4,065	
	30～49年経過分	15	2,103	1,991	
	10～29年経過分	18	1,849	1,333	
岩木川 (青森県)		156	5,323	5,115	津軽地方の拠点都市である弘前市等を擁し、青森県内最大の津軽平野に広がる農地を抱えていることから、農業用水や上水道用水として良質な水の確保や安定供給が求められている。
	50年以上経過分	64	3,325	3,252	
	30～49年経過分	61	1,661	1,577	
	10～29年経過分	31	337	286	
最上川 (山形県)		270	8,139	7,117	山形県一円を包括し、内陸部には水田地帯、下流部には酒田臨海工業団地等の工業地帯が存在する地域であることから、水道用水や農業用水、工業用水として良質な水の確保と安定供給が求められている。
	50年以上経過分	110	3,911	3,685	
	30～49年経過分	99	2,833	2,465	
	10～29年経過分	61	1,395	967	
利根川 (茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都)		547	11,822	11,194	関東平野の農業用水として広大な農地のかんがい用河川水が利用されているほか、首都圏1都5県に住む人々の水道用水としても利用されており、良質な水の確保や安定供給が求められている。
	50年以上経過分	172	6,870	6,665	
	30～49年経過分	182	3,339	3,129	
	10～29年経過分	193	1,614	1,400	
九頭竜川 (石川県・福井県)		485	15,107	12,510	農業用水として手取川扇状地や加賀平野等の農地のかんがい用として利用されており、九頭竜川や手取川では水力発電への水利用により多くの電力が生み出されていることから、水の安定供給が求められている。
	50年以上経過分	112	6,977	6,347	
	30～49年経過分	176	4,833	3,745	
	10～29年経過分	197	3,297	2,418	
熊野川 (三重県・奈良県・和歌山県)		667	21,756	17,924	急峻な山岳地帯からなることと多雨量流域であることから古くからその豊富な水量を利用した水力発電が盛んに行われており、水の安定供給が求められている。
	50年以上経過分	131	9,396	8,377	
	30～49年経過分	189	7,706	5,744	
	10～29年経過分	347	4,654	3,803	
江の川 (島根県・広島県)		1,695	36,157	33,716	中国地方最大の河川である江の川を擁し、中国地方中央部の人々の生活を支えており、発電用水や水道用水、農業用水として利用されていることから良質な水の確保と安定供給が求められている。
	50年以上経過分	565	16,175	15,636	
	30～49年経過分	528	11,385	10,346	
	10～29年経過分	602	8,597	7,734	
四万十川 (愛媛県・高知県)		894	13,931	13,516	上流部の急峻な地形を活かし、水力発電として水利用されているほか、農業用水や四万十市等の水道用水としても利用されており、良質な水の確保と安定供給が求められている。
	50年以上経過分	306	7,093	6,987	
	30～49年経過分	290	3,653	3,560	
	10～29年経過分	298	3,185	2,969	
大淀川 (宮崎県)		1,087	25,522	21,359	温暖多雨な気象で農業用水や水道用水をはじめ、古くから水力発電が行われてきており、水の安定供給が求められている。また、林木の生育に好適な環境であり、地域において森林・林業への関心は高い。
	50年以上経過分	245	12,049	10,093	
	30～49年経過分	433	7,123	6,277	
	10～29年経過分	409	6,350	4,990	
合 計		5,875	146,053	129,838	
	50年以上経過分	1,746	70,138	65,105	
	30～49年経過分	1,973	44,637	38,833	
	10～29年経過分	2,156	31,278	25,900	

注) 合計と内訳の計が一致しないのは四捨五入によるものである。

指標年における生育状況取りまとめ表

広域流域名	指標年	調査対象区域面積(ha)						備考
		生育遅れ		広葉樹林化		生育遅れ・ 広葉樹林化 の主な理由		
		面積(ha)	率	面積(ha)	率			
石狩川	50年	622	-	-	28	5%	雪害	ウダイカンバ等
	30年	69	-	-	12	17%	雪害	シラカバ等
	10年	319	-	-	-	-		
岩木川	50年	540	-	-	110	20%	雪害	ホオノキ等
	30年	114	-	-	5	4%	雪害	ミズナラ等
	10年	44	-	-	2	5%	雪害	ミズナラ等
最上川	50年	335	-	-	64	19%	雪害	ミズナラ等
	30年	88	-	-	6	7%	雪害	ヤマザクラ等
	10年	35	1	3%	-	-	雪害	
利根川	50年	721	-	-	125	17%	寒風害	コナラ等
	30年	52	-	-	14	28%	獣害(シカ)	シナノキ等
	10年	62	6	9%	2	3%	獣害(シカ)	ウリハダカエデ等
九頭竜川	50年	502	-	-	142	28%	雪害	クリ等
	30年	106	-	-	9	9%	雪害	アカメガシワ等
	10年	49	3	7%	-	-	雪害	
熊野川	50年	404	-	-	73	18%	獣害(シカ)	アラカシ等
	30年	289	-	-	13	5%	干害	スダジイ等
	10年	88	5	6%	4	5%	獣害(シカ)	雑灌木
江の川	50年	1,488	-	-	79	5%	雪害	ナラ等
	30年	464	-	-	28	6%	雪害	リョウブ等
	10年	97	1	1%	-	-	雪害	
四万十川	50年	344	-	-	9	3%	雪害	ヤマグワ等
	30年	113	-	-	5	5%	雪害	シラカシ等
	10年	113	-	-	-	-		
大淀川	50年	464	-	-	67	14%	干害	クヌギ等
	30年	562	-	-	52	9%	干害	シイ等
	10年	476	-	-	1	0%	獣害(シカ)	雑灌木

※ 備考欄に記載の広葉樹名は、広葉樹林化した区域の主たる広葉樹。

※ 森林調査(VI年齢以上の林分において実施)実施済地については当該調査により、森林調査未実施地については簡易な生育調査により、それぞれデータを作成。

※ 生育遅れ率及び広葉樹林化率は、事業対象区域面積のうち前生広葉樹等面積を差し引いた面積により算定。

※ 指標年30年(利根川)においては、獣害(シカ)により広葉樹林化率の割合が大きくなっているが、現地はシナノキ等高木性の広葉樹に加え下層にも低木性の広葉樹や草本類がある林況となっており、公益的機能の発揮が確保されていると考えられる。また、引き続き獣害対策を行い植栽木の保全に努めていく考え。

※ 指標年50年(九頭竜川)においては、雪害等により広葉樹林化率の割合が大きくなっているが、現地はクリ等高木性の広葉樹に加え下層にも低木性の広葉樹や草本類がある林況となっており、公益的機能の発揮が確保されていると考えられる。

指標年における費用便益分析結果

(単位：ha、千円)

広域流域	指標年	事業対象 区域面積	便益 (B)	費用 (C)	B/C	(参考) H29 B/C	総事業費 (税込)
石狩川	50年経過分	622	25,150,478	16,693,552	1.51	1.60	21,060,148
	30年経過分	69	1,379,219	886,412	1.56	1.50	10,732,767
	10年経過分	319	2,851,087	1,591,814	1.79	1.89	5,775,138
岩木川	50年経過分	540	23,069,538	18,334,323	1.26	1.25	20,787,641
	30年経過分	114	2,343,892	1,832,910	1.28	1.21	10,495,860
	10年経過分	44	452,429	309,540	1.46	1.52	1,517,031
最上川	50年経過分	335	16,038,083	11,485,028	1.40	1.39	23,851,879
	30年経過分	88	2,063,309	1,427,890	1.45	1.35	16,524,322
	10年経過分	35	442,363	251,950	1.76	1.69	5,186,539
利根川	50年経過分	721	35,017,804	27,187,946	1.29	1.28	47,416,597
	30年経過分	52	1,132,327	903,049	1.25	1.35	22,574,314
	10年経過分	62	690,001	481,067	1.43	1.57	8,576,435
九頭竜川	50年経過分	502	26,986,421	18,128,296	1.49	1.42	42,938,059
	30年経過分	106	2,580,564	1,743,092	1.48	1.36	26,337,351
	10年経過分	49	558,251	311,521	1.79	1.71	13,247,728
熊野川	50年経過分	404	26,932,364	14,807,072	1.82	1.42	57,932,272
	30年経過分	289	8,922,580	4,809,048	1.86	1.37	40,976,818
	10年経過分	88	1,333,204	590,722	2.26	1.72	20,577,125
江の川	50年経過分	1,488	75,728,868	48,698,134	1.56	1.46	97,265,239
	30年経過分	464	10,714,369	6,898,865	1.55	1.41	66,087,058
	10年経過分	97	1,049,875	562,191	1.87	1.77	38,697,747
四万十川	50年経過分	344	22,216,239	11,132,868	2.00	1.62	43,088,095
	30年経過分	113	3,327,889	1,668,382	1.99	1.57	22,577,831
	10年経過分	113	1,572,730	645,595	2.44	1.97	14,427,418
大淀川	50年経過分	464	28,414,677	14,439,952	1.97	1.97	59,336,283
	30年経過分	562	16,145,906	7,922,161	2.04	1.89	37,799,070
	10年経過分	476	6,941,779	2,963,033	2.34	2.38	24,388,751